

小児病棟における小児がんの子どものための退院支援

2 階東病棟

○石浦 光世 小松 和代 廣瀬 明美 谷本 未来
葛西 宏美 有吉 久美子 坂本 美和

キーワード：小児がん 家族 退院支援 継続看護

【背景】 小児がんの子どもは、長期入院を経て退院に至る際に、症状マネジメントや療養行動の継続、家庭および学校 / 保育園における生活への再適応が課題となる。しかし、病棟看護師による退院支援はシステムとして確立していない。

【目的】 小児がんなど慢性疾患をもつ子どもと家族を対象とした、病棟看護師による在宅療養支援ワーキンググループを立ち上げ、退院支援のシステム化に取り組んだ。

【方法】

1. 病棟看護師、医師、MSW をはじめとした各職種の役割を明確化する。
2. 退院支援に向けたプロセスを明示する。
3. 退院支援のための患者情報シートを作成する。
4. 電子カルテシステムを活用した多職種間の連携強化を図る。

【結果】 在宅療養支援ワーキンググループを中心として、病棟看護師間で情報共有を図りながら、子どもや家族のニーズや退院時の課題を明確にし、退院後の療養生活を整えるための外来との連携および継続支援、保育園や学校への情報提供、医療的ケアを要する子どもの医療 / 保健 / 福祉 / 教育機関とのカンファレンスの実施などの支援を行っている。

【考察】 病棟における退院支援のシステム化への取り組みにより、退院支援のプロセスと看護師の役割が明確になり、実践につながった。看護師は、病棟、外来、地域におけるとぎれのないケアを行うことが大切である。すなわち、子どもと家族と共に入院中から退院後の生活を見据えた課題に向き合い、職種間のコーディネート役となりながら、外来における継続支援を担う必要がある。

【結論（課題）】 看護師による退院支援の浸透、外来 / 地域における職種間との連携と情報共有、カルテシステムの見直しを要する。